

# 私たちは、環境方針を新たに策定し 持続可能な社会の実現に貢献していきます。

2018年に日比谷アメニスグループが策定した「環境宣言」から5年が経過しました。

この間に国内外においては持続可能な社会づくりに向けた、炭素中立・自然再興・循環経済など新たな目標が示され、

またウェルビーイングや地方創生、DXなどもテーマとなっています。

これらの社会的動きに対応し、緑地や水辺、生き物の生息場所などの自然的な環境と、景観や安全安心などの様々な環境を創り育てる

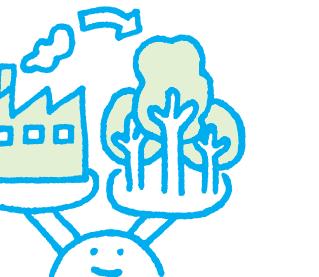
「花とみどり」に取り組む企業として、環境経営を進めるため新たに「環境方針」を定めました。

環境方針を事業活動に反映する事で、SDGsの達成に貢献します。

## 【5つの方針】

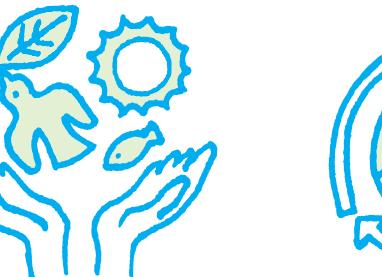
### 炭素中立 (カーボンニュートラル)

私たちは、「花とみどり」の持つ多面的な効用を最大限活用するとともに、事業活動によるCO<sub>2</sub>排出量の削減を徹底することで、世界の2050年炭素中立目標に貢献します。



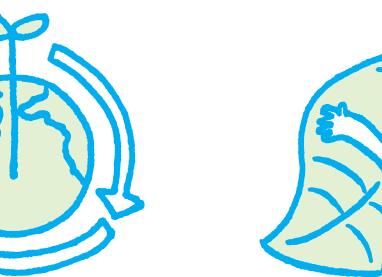
### 自然再興 (ネイチャーポジティブ)

私たちは、生物多様性の損失を止め、回復させる行動を推進するとともに、そこから得られた自然の価値を様々な人と共有して、人と自然が共生する社会の実現に貢献します。



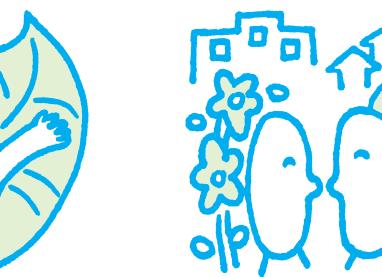
### 循環経済 (サーキュラーエコノミー)

私たちは、「花とみどり」の空間をつくる資源である「水」「土」「木」を有効に利用するとともに、廃棄物の削減と適正な処理を徹底し、循環経済の実現に貢献します。



### ウェルビーイング (サーキュラーエコノミー)

私たちは、「花とみどり」を持つ心身を豊かにする力を引出すことにより、誰もがいきいきと暮らすことができるウェルビーイングな社会の実現に貢献します。



### 地方創生

私たちは、「花とみどり」を活かしたモノ・コトづくりを通じ、その土地の風土を的確に捉え、地域の人々とともに新たな価値を創造することで、持続可能な地域づくりに貢献します。

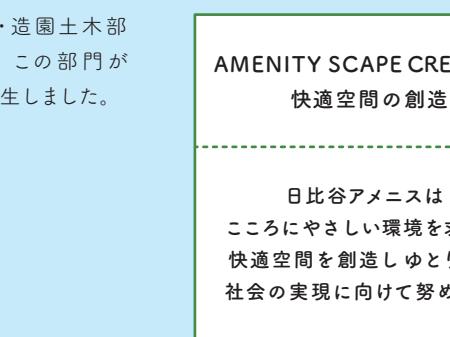


## 日比谷アメニスグループ これまでの環境への取り組み

1971年

### （株）日比谷花壇造園土木 設立

株式会社日比谷花壇・造園土木部の事業拡大に伴い、この部門が分社化され、当社が誕生しました。



日比谷アメニスは  
ここにやさしい環境を求めて  
快適空間を創造しゆとりある  
社会の実現に向けて努めます。

1991年

### 日比谷アメニス 社名変更

株式会社日比谷花壇・造園土木部の事業拡大に伴い、この部門が分社化され、当社が誕生しました。

2011年

### 当社初の CSRレポート発行



日比谷アメニスは  
ここにやさしい環境を求めて  
快適空間を創造しゆとりある  
社会の実現に向けて努めます。

2012年

### コーポレートメッセージ 策定



【3つのビジョン】  
◎世界に誇れる「景色」をつくろう  
◎ここが響きあう「場」をはぐくもう  
◎生命あふれる地球を未来にとどけよう

2016年

### CSR方針 策定

日比谷アメニスグループでは、社会に貢献していくとともに、“日比谷アメニスグループらしさ”的醸成と企業の持続的成長につなげることを目指し、以下の2つのCSRに取り組むことを方針として定めています。

●世界環境への取り組み  
SDGs発効

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2018年

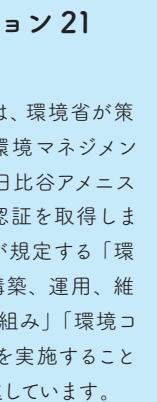
### 環境宣言 策定

環境宣言から5年、社会の動きに対応し、環境経営を進めため、新たに「環境方針」として策定し、経営方針として位置づけました。策定された環境方針は、伊藤社長が社員に発表するとともに、コーポレートサイトやプレスリリースを通じて、社外のステークホルダーの皆さんにも広報されました。

2023年

### 環境方針 発表 エコアクション21 認証取得

環境宣言から5年、社会の動きに対応し、環境経営を進めため、新たに「環境方針」として策定し、経営方針として位置づけました。策定された環境方針は、伊藤社長が社員に発表するとともに、コーポレートサイトやプレスリリースを通じて、社外のステークホルダーの皆さんにも広報されました。



これから

### 環境目標 環境計画 作成

環境方針を具体化するための目標を定め、これを達成するための計画も作成し、各種活動に取り組んでいきます。日比谷アメニスグループらしさを持った目標・計画としていき、関連するデータの集計・報告も行います。定めた目標・計画は適宜見直しを行い、常に時代の変化に対応できるようにしていきます。

